

## 第64回「前島密賞」受賞

ネットワーク開発部の音 洋行、内山 靖之、NTT 未来ねっと研究所の尾花 和昭氏は、「複数ベンダのEPCソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術の実用化」への功績が認められ、2019年4月10日に公益財団法人通信文化協会より第64回「前島密賞」を受賞しました。

前島密賞とは、通信事業の創始者「前島 密」氏の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるため、1955年に設けられ、情報通信および放送の進歩発展に著しい功績があった者に、公益財団法人通信文化協会より授与されるものです。ドコモは、昨年の「FDD方式とのCA（キャリアアグリゲーション）を実現した3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化」

に続いての連続の受賞となりました。

受賞の対象となった「複数ベンダのEPCソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術の実用化」は、大規模災害にも強い社会インフラとしての信頼性を確保し、産業のデジタル変革を支える通信インフラとして、いつでもつながる移動通信ネットワークサービスをリーズナブルなコストで提供するために、通信キャリアのコアネットワーク機能のEPC（パケット交換器）のソフトウェアを対象に、仮想化技術を適用するネットワーク仮想化（NFV：Network Functions Virtualisation）を実用化したものです。受賞した音、内山、尾花氏は、ネットワーク仮想化技術に関する国際標準化活動をリードし、複数ベンダでの実証実験を通じて技術的実現性を確立することで、複数ベンダのEPCソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術を2016年3月に世界で初めて実用化しました。

この実用化はネットワーク仮想化における世界の先行事例であり、国際標準化をリードしNFV普及の中心的役割を果たし、国際標準規格に準拠することでマルチベンダの水平分業型エコシステムが実現できることを立証するなど、キャリアネットワーク変革のロールモデルとなっており、移動通信業界への貢献は誠に顕著であることが評価され、今回の受賞となりました。



（左から）尾花氏、内山、音

